

本年六月の天象

太 陽

日	赤經	赤緯	視直徑	星 座
1	4時34分31秒	北22度 0分	31分35秒	う し
11	5時15分42秒	北23度 4分	31分33秒	う し
12	5時57分15秒	北23度27分	31分31秒	ふたご
(31)	6時 8分48秒	北23度 9分	31分31秒	ふたご

月始めは双子座にあるが、22日から巨蟹宮に侵入する。即ち此の日は夏至であつて、晝間最も長く、日出は午前4時46分、日没は午後7時17分である。太陽の赤緯は北緯23度27分0秒にまで達する。視直徑は次第に減少して、月末には31分30・8秒となり、本年中での最小値となる。

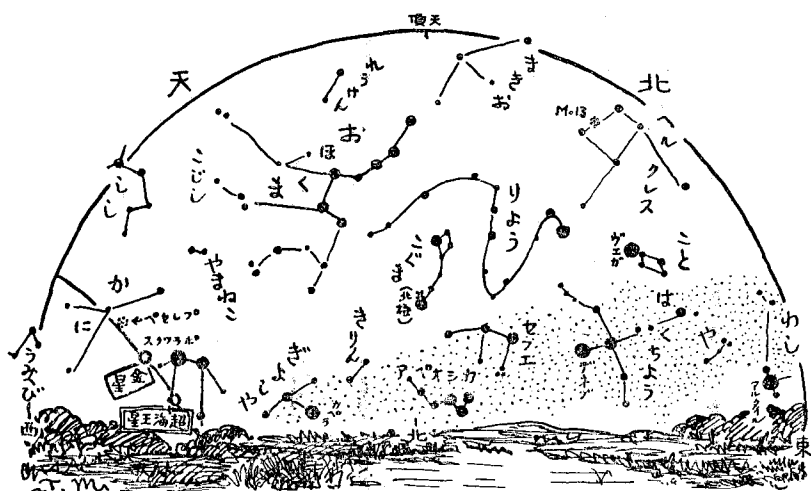
月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
上 弦	4日午前 6時56分18秒	32分 8秒	し し
満 月	11日午後 3時11分42秒	30分15秒	へびつかひ
下 弦	19日午後 6時 0分24秒	30分 0秒	う を
新 月	26日午後10時46分42秒	32分55秒	ふたご
遠地點通過	16日午前 9時54分	23分30秒	や ぎ
近地點通過	28日午後 0時18分	33分 7秒	か に

3日の午前9時に海王星と出合つて、その北側を通るのが、今月の月の遊星歴訪の最初である。次ぎは、13日午前6時に土星に追ひ付くのであつて、その南5度の所を通る。21日午前4時には天王星に出合つて、その南側僅か離れた所を通る。我國からも見えるが、天王星の光度が小さいから、望遠鏡は必要である。次いで、23日正午に火星と出合つて、その僅か北側を通り、25日午後1時には水星に追ひ付いてその北側を、更らに、26日午後4時には木星を追ひ越すが、共に新月に近いので観望は不便、29日午前9時に金星と出合ひ、30日午後4時に再び天王星と出合つて、今月の歴訪を終る。



每王星 宵の西天にあり。レグルスに近い。光度8等。視直径2秒餘。



六月の恒星界

北斗七星は高く位し、天頂には「まきを」が来てゐる。北極星を取り圍んで、「おほくま」「りよう」「セフェ」「カシオペヤ」「きりん」「ぎよしや」などの星座が並び、天の川が東の地平線に僅か見え始めてゐる。南方にはまだ春の星座「しし」「をとめ」「ヒドラ」等が居残つてゐるが、既に「へびつかひ」「さそり」七夕の「こと」と「わし」「はくちよう」等が東に現はれ始めて、初夏の感を強めてゐる。

南の空の「ヒドラ」が長々と横はつた背に、「コップ」「からす」等が乗つてゐるのも愛らしく、「センタウル」や「おほかみ」「ボンブ」等の諸星座が南の空、遙か低く彼方に認められる。

雨や曇りにたゞられる月であるため、思ふ様に観測も出来ないかも知れないが、それでも、土星丈は是非、今月頃から見度いものである。太陽と衝になるのは、來月一日であるから、今月末には最も觀望の好時期となる。